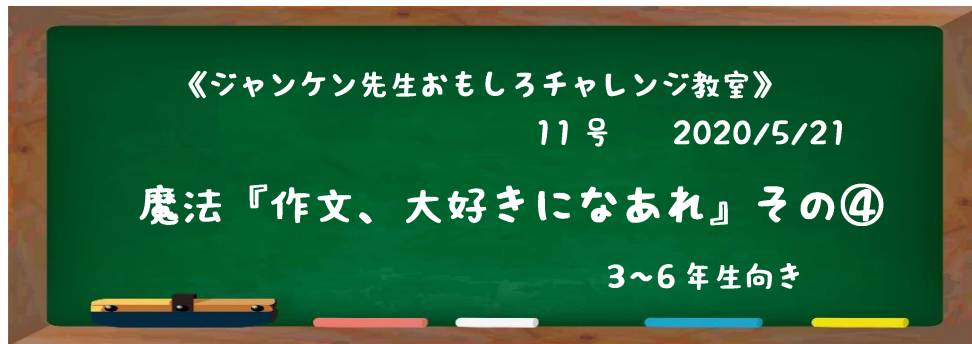




ジャンケン先生の話です。「『見えないものを見る』、これが魔法の秘密ですが、もうひとつ大切なことがあります。それは『見えるものを見る』です。」

メダちゃんは「先生、それって当たり前ではないですか。」と言っていました。すると、先生は「メダちゃんが見えるものを見ているか、伝言ゲームをしましょう」と言いました。メダちゃんは、ゲームと聞いてがぜんやる気になりました。

伝言ゲームとは…写真のお皿の上にのっているものを先生に伝える。先生は遠くにいますので電話を使う。ただし、「リンゴ」「赤」ということばを使うことはできない。



伝言ゲームが始まりました。先生「まず、その色を教えてください。」

メダ「イチゴと同じ色です。」

先生「赤い色、郵便ポストです。」

メダ「お皿にのるものですよ、食べるものですよ。」

先生「真っ赤（まっか）な赤ですか。」

メダ「真っ赤ではありません。全体は赤で、黄色の小さい点々がまざっています。へたのあるくぼんだ所は黄色です。」

先生「へたがあるということはくだものですね。形と大きさを

教えてください。」

メダ「丸い形をしていて、うーん、野球のボールより大きいです。」

先生「小玉スイカかな。中は赤いけど、外は緑か、違うかな。」

メダ「もうちょっと小さい。おとうさんがグーをした手よりもうちょっと大きいです。」

先生「くだもの、へた、赤、丸い、おとうさんのグー。うーん、リンゴかな。」

伝言ゲームが終わると、先生はこんなお話をしてくれました。

「リンゴ」ということばを使うと「お皿にリンゴがありました。」で終わり。それ以上の説明をしようとしないう。 「リンゴ」を使わないで「あるもの」を説明しようとする、色、形、大きさなどよく見るようになる。これが「見えるものを見る」。

もう少し例を上げます。マラソン大会の作文の時、「野島公園でマラソン大会が開かれました。」と書けば、みんな同じ文になってしまう。そこで、「マラソン」「野島公園」の言葉を使わないで書いてみる。青い海、白い波、緑の松、砂浜、かもめ、スタートライン、長い距離、応援の人…「見えるものを見ていく」と、自分だけの作文になります。

「見えるものを見る」「見えないものを見る」、この二つが《作文大好き魔法》です。

明日は、「見えないものを見る」を詳しく勉強しましょう。